

チームの 頭脳



「データエンジニア」の 仕事に迫る!

チームの頭脳ともいえるエンジニア。NAKAJIMA RACINGは岡田淳エンジニア (SF64号車) と加藤祐樹エンジニア (SF65号車・GT64号車) がそれぞれチーフエンジニアとして車両に携わっています。その2人を支えるのがデータエンジニアの吉田エンジニアと古室エンジニアです。



〈左〉
吉田出海 (よしだい ずみ)
名古屋工業大学出身。
2023年入社。
もらって嬉しい差し入れは
「エナジードリンク」。

〈右〉
古室春輝 (こむろ はるき)
日本大学出身。
2023年入社。
趣味も「レースゲーム」の
モータースポーツ好き。

——データエンジニアとはどんな役割なのでしょう?

吉田 クルマ1台を走らせてタイムを削るためには、乗る人(ドライバー)、組み立てる人(メカニック)など様々な役割がありますが、エンジニアというのは「速く走らせるために考える人」という役割です。その中でもデータエンジニアというのは、車両に搭載されたセンサーからのデータを整理して、チーフエンジニアに数値をフィードバックするというのが主な役割です。自動車はエンジンやタイヤ、サスペンション、空力など様々な要素が絡み合っている工業製品ですが、その中でもトップクラスの技術力が詰め込まれているのがレーシングカーで、形作る要素のひとつひとつがとて奥深いものです。その奥深いものを限られた時間の中で紐解いていくためには、複数人のエンジニアがチームを組んで処理していくことが求められます。

古室 海外レース、特にヨーロッパではもっと分業が進んでいて、たとえばレースのストラテジー(ピットインのタイミングや燃料の搭載量などのレース戦略)を考える専

門のエンジニアがいたり、F1やF2だとタイヤ専属のエンジニアがいたりしますね。日本では純粋にエンジニアの数が少ないというのがありますが、名目上は〇〇エンジニアという風に名前が分かれていたりするものの、役割としてはそれぞれが幅広く担当しています。

——SUPER GTでは、お二人で1台のデータエンジニアを務めていらっしゃいますね。

吉田 データロガーの運用や、ストラテジーや燃費計算は古室さんがやってくれていて、実際に1周走ってみてどうだったのかを細かく見るのは僕が担当しています。

古室 データエンジニアは僕が、吉田さんは車両のラップタイムのパフォーマンスを分析する、パフォーマンスエンジニアのような役割になっていますね。

——工場では普段どんなお仕事をされていますか?

古室 車両部品のマイレージ管理やセンサーのキャリブ



走行データを分析し、チーフエンジニアやドライバーに分析結果をフィードバックする

レーション(メモリ調整)、次戦に向けたセットアップの検討などを行っています。レースはテストの時間が非常に限られています。吉田さんがものすごいシミュレーションツールを組んでくれて、それを使っているうちに練習しています。

吉田 他チームのレースエンジニアたちと戦うにあたって、自分が武器にできるのはそういうツール開発しかないと思っています。

——仕事のやりがいとは?

古室 まだ入社して1年なのでそんなに経験がありませんが、昨年SFで佐藤選手が予選でいい順位を獲得してくれた時は「やってよかった」と思いました。ただ同時に、「もっとやらない!」とも思いましたね。

吉田 僕も結果がいいという観点では古室さんと同じですが、予選一発がめっちゃめっちゃ決まったときにはものすごく気持ちがいいです。もちろんドライバーが出てくれたタイムではありますが、僕たちが考えてメカニックが組み立てたクルマにドライバーが乗ってタイムを出す。みんなで作り上げた1周のタイムがいいときは、気持ちいいですね。

——今まで一番プレッシャーがかかったレースはいつですか?

古室 今年のGT開幕戦です。昨年まではタイヤメカニックの手伝いで現場にいましたが、今年からはエンジニアとして帯同しています。そんなデビュー戦で決勝の燃料計算を担当することになったのですが……。何があってもガス欠をさせないようにと、マージンを取りすぎてしまいました。あのレースは、始まった瞬間の顔がやばかったぞって、いろんな人に言われました。

吉田 僕は一昨年のSFもてぎです。入社は昨年4月ですが、その前年に加藤エンジニアに声をかけてもらって、エンジニア業務を手伝わせてもらっていました。その時は岡田エンジニアと一緒にレースに向けたアイテムを考えていて、もてぎ戦でそれを投入することになったんです。すごく楽しみにしていたのですが、突然山本選手担当のデータエンジニアが体調不良で行けなくなってしまい、急遽データエンジニアとしてデビューすることになりました。結果はポールトゥウィン。もう、キャリア一生分の運を使ってしまったと思っています。

——SFではそれぞれ、岡田エンジニア、加藤エンジニアと組んでお仕事をされていますね。

吉田 岡田エンジニアと組んでいてよく言われるのは、「アイデアの数か腕の見せ所だぞ」ということ。これがダメならあれ、それがダメだったら次はこれという風に、すぐにアイデアが出せるぐらい頭の中に持っておけと言われる。

古室 加藤エンジニアには「レースは準備がすべて」と言われます。あと、レースプランを考えるうえで言われるのは、メカニックの事情も考えなきゃいけないということですね。セットアップ変更にとりだしたら時間がかかるのかを含めてプランを考えることは、全体を組み立てるのにはすごく大事なことです。

——最後にチームを応援してくださるスポンサーの皆さまへ一言

古室 今シーズンも残りわずかとはいりましたが、何とかドライバーを表彰台に立たせてあげられるように頑張ります。今後も応援よろしくお願いします。

吉田 いつも熱い応援をありがとうございます。自分が身につけたスキルをしっかりと出し切って、「楽しかった!」と言ってもらえるレースができるように頑張っています。



刻々と変化する状況を把握した上で対応が求められる